



### 「ほめる教育」は子どもを潰す！

ショッキングなタイトルに引きつけられてあるテレビ番組を見ました。数年前のことです。番組の概要は次のようなものでした。

現代社会では甘やかされて育った子どもが増加している。1980年代からほめる教育が広がった。マラソンの高橋尚子選手と高橋選手をほめて伸ばした小出監督との関係は、動物と調教師の関係に似ている(異論はあるかも知れませんが...)。その本質は調教であり、子育てとは違う。子育てはマラソンで金メダルを取らせるのとは違う。子育てや教育は、自分で走る「意志」を持たせることを目的とするのである。「やる気」には2種類ある。一つは「アモーレ情熱」であり、好きだからやる気が起きるなどの内発的動機付けによる「やる気」である。もう一つは「義理子ヨコ情熱」であり、ご褒美やほめられることをめあてにするなど下心のある外的動機付けによる「やる気」である。当然のことながら、内発的動機付けによる「やる気」が望ましいに決まっているが、驚くことにほめることを繰り返すことによって、その「アモーレ情熱」は失われていくのである。

アメリカで次のような心理学実験が行われた。絵の好きな子どもたちをA・B二つのグループに分け、絵を描かせるのである。Aグループの子どもたちには、よくできたらごほうびを繰り返す、Bグループの子どもたちには、単に絵を描かせるだけでほっておく。するとAグループの子どもたちは、ごほうびをやめると絵を描くことをやめるが、Bグループの子どもたちは、好きで描いている絵をいつまでも描き続けるという結果になった。このことから、「ほめるためにほめると、情熱をなくす」ことがわかったというものである。

「かしい」「すごい」の連発がパターン化すると、自己の可能性を信じるところを通り越して増長し、自己認識の甘い子どもになる危険性があるということなのです。本来 子育てや教育の場面に「ごほうび」は必要ないのです。子どもと取引していることとなります。今、自分がしていることが楽しいと感じさせ、誰かの役に立っているんだと思わせること、そして前向きで生産的な活動に充実感を味わわせることが重要であり、そう感じ、思える子どもを育てることが子育て、すなわち教育の一つの側面なのです。

計算の答えや着替え、片付けなどの自分のことは、自分でさせないといけません。自分がしないと意味がないのです。苦労すればするほど、我慢すればするほど、できたときの充実感や成功感、成気感は大なるものなのです。「かわいそう」より「待つ」ことが重要です。時間が無いからといって、子どもの貴重な体験や経験を大人が奪ってはならないのです。また、早すぎる親子の「友達」関係はよくありません。親 大人としての権威が学童期の子どもにとっては必要なのです。子どもに迎合せず親らしさ、大人らしさを発揮することで子どもは秩序を学ぶのです。

一方で自己認識の甘さから、自分本来の能力を見誤り、増長したり傲慢になる子どもたちがいて、もう一方で自分のアイデンティティが確立できずに自尊感情を損ない、自分を見失う子どもたちもいるという現実があります。二極化しているとは思いますが、だんだんその方向に動いているような気がするのも事実です。要は過剰にほめないで「待つ」教育が大切だということでしょう。今からでも親子関係は変えられます。子どもはできるだけ自然に「ほっておく」のが一番です。子どもが自分で考えるようになります。前述の番組は、何でもほめて育てることに偏ってしまうことに警鐘を鳴らす番組だったと私は受け取りました。何事にもバランスが大切であるということですね。

(文責/横手誠)



## オアシス

児童の健康と安全を願うコーナーです。

### 運動と生活習慣

#### — 1日の運動時間—

- ・30分未満…17% (県 17.8%)
- ・30分以上1時間未満…24.8% (県 20.6%)
- ・1時間以上2時間未満…28.5% (県 26.9%)
- ・2時間以上…29.7% (県 34.7%)

#### — 朝食—

- ・毎日食べる…92.8% (県 87.6%)
- ・ときどき欠かす…7.2% (県 11.3%)
- ・まったく食べない…0% (県 1.1%)

#### — 1日の睡眠時間—

- ・6時間未満…4.3% (県 6.3%)
- ・6時間以上8時間未満…50.3% (県 42.4%)
- ・8時間以上…45.3% (県 51.4%)

(割合は小教第2位を四捨五入)

● 左は、今年度の「全国運動習慣調査」(5年児童への質問紙による)の、本校の結果です。

● 県平均と比較してみても、おおむね良好な状況にあります。

● 春に実施した「新体力テスト」では、全学年で昨年度より総得点が約6~10ポイント向上し、5学年で県平均を上回りました。

● 冬の間も、休み時間になると運動場で、なわとびなどを楽しむ子どもたちの姿がたくさん見られました。

● 給食場前の梅の花が咲き、全国的なインフルエンザの流行もピークを過ぎたという報道がありました。寒くても続けてきた運動を一層楽しめる季節を迎えます。ますます元気よく体を動かしてほしいと願っています。ご家庭でも引き続き生活習慣のサポートをよろしくお願いいたします。

(香川県教育委員会→保健体育課・ホームページで詳しいデータが見られます。)

(文責/大海隆志)